

【クリニカルクエスチョンの設定】

スコープで取り上げた重要臨床課題 (Key Clinical Issue)				
切除不能局所進行非小細胞肺癌で全身状態良好(PS 0-1)の患者に対して化学放射線療法を行った後の地固め療法は有用か？ サブ: 細胞傷害性抗癌薬				
CQの構成要素				
P (Patients, Problem, Population)				
性別	指定なし			
年齢	18歳以上の成人			
疾患・病態	切除不能・局所進行非小細胞肺癌, 化学放射線療法後nonPD			
地理的要件	医療体制の確立した地域			
その他				
I (Interventions) / C (Comparisons, Controls) のリスト				
Interventions: 異なる細胞傷害性抗癌薬を用いた地固め療法 Comparisons: 経過観察				
O (Outcomes) のリスト				
	Outcomeの内容	益か害か	重要度	採用可否
O1	全生存期間	益	9点	○
O2	毒性	害	8点	○
O3	無増悪生存期間	益	7点	○
O4			点	
O5			点	
O6			点	
O7			点	
O8			点	
O9			点	
O10			点	
作成したCQ				
CQ41-1 同時化学放射線療法後に異なる細胞傷害性抗癌薬に変更して地固め化学療法を行うよう勧められるか？				

【二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究デザイン	P	I	C	O	コメント	PubMed ID (URL)
Hanna N, et al. J Clin Oncol 2008	RCT	切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌 ECOG PS 0-1(治療開始時) (ランダム化時PS0-2許容) CDDP+ETP+TRT(59.4Gy)後 再燃がない症例をランダム化	ドセタキセル 75mg/2 day1 3週毎 3サイクル	経過観察	主要評価項目:OS	第Ⅲ相試験(優越性)	https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/19001323/

【4-8 定性的システマティックレビュー】

<p>CG</p>	<p>CQ41-1</p>	<p>同時化学放射線療法後に異なる細胞傷害性抗癌薬に変更して地固め化学療法を行うよう勧められるか？</p>
<p>P</p>	<p>切除不能・局所進行非小細胞肺癌 化学放射線療法後nonPD</p>	
<p>I</p>	<p>異なる細胞傷害性抗癌薬を用いた地固め療法</p>	
<p>C</p>	<p>経過観察</p>	
<p>臨床的文脈</p>		<p>切除不能・局所進行非小細胞肺癌患者における化学放射線療法後の異なる細胞傷害性抗癌薬(ドセタキセル)を用いた地固め療法は、O1(全生存期間)、O3(無増悪生存期間)を延長させず、O2(毒性)は肺臓炎・感染症において有意に高かった。</p>

<p>O1</p>	<p>全生存期間</p>
<p>非直接性のまとめ</p>	<p>なし</p>
<p>バイアスリスクのまとめ</p>	<p>盲検化されていない, サンプルサイズ変更された試験など</p>
<p>非一貫性その他のまとめ</p>	<p>評価できる試験が1つのみ</p>
<p>コメント</p>	

<p>O2</p>	<p>毒性</p>
<p>非直接性のまとめ</p>	<p>なし</p>
<p>バイアスリスクのまとめ</p>	<p>盲検化されていない, サンプルサイズ変更された試験など</p>
<p>非一貫性その他のまとめ</p>	<p>評価できる試験が1つのみ</p>
<p>コメント</p>	

<p>O3</p>	<p>無増悪生存期間</p>
<p>非直接性のまとめ</p>	<p>なし</p>
<p>バイアスリスクのまとめ</p>	<p>盲検化されていない, サンプルサイズ変更された試験など</p>
<p>非一貫性その他のまとめ</p>	<p>評価できる試験が1つのみ</p>
<p>コメント</p>	